	項目	内 容												
	1. 国内	(1)生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会令和7年9月末実施)によると、8月の推計実績は処理羽数61,311千羽(前年比	上文中20 H 文中20 H 大学 1777 1777 1777 1777 1777 1777 1777 1								Fh'			
		104.3%)、処理重量181.2千% (同105.1%)となった。処理羽数が前年同月比104.3%で、前月時点の計画値から2.9%上方修正さ	1./±1/\1/L	R6年累記	計(推計)	R7年8月実	績(推計)	R7年9	月計画	R7年10月		R7年11月		
		れた。処理重量は同105.1%と、同じく前月時点の計画値から2.8%上方修正されている。産地からは暑さの影響で鶏の食欲が低		数量		数量			前年比		前年比		前年比	
		下し、増体不良による歩留まり低下や内臓廃棄が増加しているという報告も多かったが、熱死の発生がかなり抑えられているとの ことで、処理羽数・重量ともに前月時点の予測を上回り、前年同月比でもプラスの結果となった。9月も引続き厳しい暑さとなった	入雛羽数	791,537		<u></u> 69,787		<u> </u>	105.1%		101.6%	<u></u> 64,056	99.3%	
		が、現在の鶏種が暑さに強くなっているため、熱死をはじめとした大きなトラブルは起こらなかったとのこと。10月も処理羽数、処	処理羽数	750,759			104.3%	62,863			101.3%	62,241	99.8%	
		理重量ともに前月予測から上方修正され、処理羽数は前月予測から+0.5%、処理重量は同0.3%となっている。	処理重量	2,273.2			105.1%	185.5			100.7%	186.1	98.1%	
		工場の人員については引き続き不足が課題となっている中、副産品(小肉・剣状軟骨など)・手羽中半割等の1.5次加工品は機	尺柱里里	2,213.2	101.570	101.2	100.1/0	100.0		**参考資料:				
		械を導入し製造している産地が見られる。この省人力化の流れは、今後他産地にも広がっていくと思われる。							, i		·// 土口 大///	7/1/1-13 122/21	, , , , , , ,	
			輸入動向											テトン、%
			品名	L	鶏肉			調製品			合計		比率	
供給	2. 輸入	(1)財務省の貿易統計によると、令和7年8月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から+1.4千~の49.6千~、、国別ではブラジルが前月	履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品
		+5.7千'、の37.7千'、、タイが▲4.5千'、の11.4千'、となった。(独)農畜産業振興機構(ALIC)によると今後の見通しは、輸入量は9	R5年累計	584.9	574.5	101.8	478.0	525.8	90.9	1,062.9	1,100.3	96.6	55.0	45.0
		月は57.8千 トッ(前年比117.7%)、10月は47.3千 トッ(同75.8%)と9月は増加するものの、10月は大きく減少する予測である。要因としては「輸入量は、以前、主要輸入先の一つであるブラジルで発生した高病原性鳥インフルエンザにより出船できなかったものが通関されたことなどから、9月は前年同月を大幅に上回る一方、10月はブラジルからの輸送船の遅延等の影響を受けて、前年同	R6年累計	639.2	584.9	109.3	503.2	478.0	105.3	1,142.4	1,062.9	107.5	56.0	44.0
			R7年4月	47.7	52.0	91.7	43.3	44.6	97.0	91.0	96.7	94.2	52.4	47.6
		通関されたことなどから、9月は前年向月を入幅に上回る一方、10月はノブジルからの軸送船の遅延寺の影響を受りて、前年向 月を大幅に下回ると予測する。なお、3カ月平均では、前年同期をかなりの程度下回ると予測する。」とされている。	R7年5月	48.5		91.1	43.3	40.8		91.8	94.0	97.6	52.9	47.1
		月で八幡に「回るこう例する。なわ、3万十万では、前午回朔でかなりの住反「回るこう例する。」こともでいる。	R7年6月	51.6		104.4	44.0	42.6		95.6	92.0	103.9	53.9	46.1
			R7年7月	48.2	51.8	93.1	50.0	47.5		98.3	99.3	99.0	49.1	50.9
		(2) 令和7年8月の鶏肉調整品の輸入量は前月から▲8.6千トンの41.5千ト。、国別では中国が▲5.6千ト。の15.0千ト。、タイが▲2.9千	R7年8月	49.6		87.5	41.5	39.8		91.1	96.5	94.4	54.5	45.5
		た。の25.5千たとなった。要因としては輸入業者の在庫調整を行ったこと等が考えられるが、詳細な情報は得られていない。	1(1-0/1	43.0	50.1	01.0	41.0	55.0	104.2				14.5 1機構「鶏肉	
		(3) (株食品産業新聞社発行の畜産日報によると、8月の輸入鶏肉(モモ肉)の価格はブラジル産で440円/kgから460円/kg(前年加重 価格390円/kg)、タイ産が500円/kg中心(同480円/kg)となっている。要因としては「8月、9月とブラジル産を中心に多めの入荷が 見込まれるものの、入船のタイミングによっては手前の在庫が薄くなるなど、全体的に余剰感はないようだ。 ブラジル産は引き続												
			鶏肉の消費	動向	₩ ₽		単		4、円、%	相	場(年別			単位:円
			履歴	,	数量	36.4.4	J	金額	V	<u> </u>			ムネ肉	計
		見込まれるものの、人痛のタイミングにようでは手前の仕庫が薄くなるなど、生体的に宗刺感はないようだ。ブランル座は切さ続 きオファー数量自体が少なく、タイ産も現地工場のワーカー不足などから、先は締まった展開が予想される。」と報告されている。		当年		前年比	当年		前年比	<u> </u>	H29年	626	315	941
			R5年平均	1,495			1,547	1,448			H30年	595	282	877
	1. 家計消費	(1)総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和7年8月の生鮮肉消費(購入)は数量	R6年平均				1,586	1,547		<b></b>	R元年	585	243	828
		4,134g(前年比103.1%)、金額6,934円(同105.0%)と、数量・金額はともに前年を上回った。鶏肉は数量1,449g(同103.6%)・金額 1,575円(同110.4%)・単価108.68円/100g(前年同月+6.7円)といずれも前年を上回った。牛肉は数量は上回ったものの、金額は 下回った。豚肉は数量・金額ともに前年を上回った。外食においては、ほぼコロナ禍前の水準程度まで回復したものの、統計外	R7年4月	1,549	,		1,630	1,539			R2年	614	269	883
			R7年5月	1,564	1,569	99.7	1,664	1,585	105.0		R3年	641	313	954
		「凹った。	R7年6月	1,458	1,568	93.0	1,572	1,524	103.1		R4年	662	348	1,010
		とはのインパソントによる集合もののことがのエリア・未態によって優快がめるように。	R7年7月	1,436	1,385	103.7	1,538	1,411	109.0		R5年	730	395	1,125
1			R7年8月	1,449		103.6	1,575	1,427			R6年	655	369	1,024
需			※参考資料:約	総務省統計局	品HP 家計調	査報告(全	国・二人以」	上の世帯1†	世帯あたり)					
要	2. 量販•卸	(1) 一般社団法人全国スーパーマーケット協会の販売統計調査によると、令和7年8月の食品売上高は全店ベースで前年比102.4%と前年を上回り、生鮮3部門の売上高は全店ベースで同102.3%、既存店ベースは同101.2%。畜産部門の売上高は約1,272億円	在庫状況(推	定)							単位:千	トン、%		
					国産			輸入品			合計			
		で全店ベース同103.3%、既存店ベース同102.0%となった。また同社が取りまとめたスーパーマーケット景気動向調査によると、	履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		
		「相場の高騰傾向が続く中でも、お盆時期は販売が好調に推移したという店舗が多い。それ以外の時期は、牛肉の不振と豚肉・	R7年4月	25.0		70.3	127.4	127.1	100.3	152.4	162.6	93.8		
		鶏肉への需要シフトの傾向が継続している。牛肉は国産、輸入共に高値推移が続き、全般的に苦戦傾向だが、雨が少なく休日 を中心に BBQ、焼肉需要は好調に推移した。豚肉は国産の価格高騰が続き、比較的安価な輸入豚が好調。鶏肉は価格高騰	R7年5月	27.0		74.4	128.2	131.0		155.2	167.3	92.7		
		を中心に BDQ、焼肉需要は好調に推移した。豚肉は国産り価格高騰が続き、比較的女価な軸八豚が好調。鶏肉は価格高騰が続くなかでも販売が堅調となった。ハムなどの加工肉にはやや回復傾向がみられた。利益確保が難しいとのコメントが多くみら	R7年6月	29.8								93.4		
		れた。」と報告されている。	R7年7月	31.3								91.9		
	3. 業務•加工筋	(1)日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べによると令和7年8月度の鶏肉加工品仕向肉量は、前年比104.4%の4.5千りとなった。う												
	3. 耒份•加工肋	(1) 日本ハム・ノーセーシエ乗励问組合調べによると同和7年8月度の舞肉加工品任同肉重は、削年に104.4%の4.5千分となった。 ソーち国内品は同105.3%の3.5千分、輸入品については同101.5%の1.0千分と国内品・輸入品ともに前年を上回る結果となった。	R7年8月	33.2	35.1	94.5	126.7					92.4		
		り回と1m(名向100:900/0910   2/ 細人m(こう)、人名向101:900/1:0   2/ 国と1m 細人m(この(こ的 十名 工匠の(世人になっ))。	※参考資料: (独) 農畜産業振興機構「鶏肉需給表」											
	1. 令和7年8月	(1)(独)農畜産業振興機構(ALIC)の8月末時点推定期末在庫では国産品33.2千~(前年比94.5%)、輸入品126.7千~(同91.9%)、												
	- 14 1131 1 074	合計で159.9千% (同92.4%)となった。			国産			輸入品	Т		合計	1 ~ , /0		
	2. 見通し	(1)(独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表では、8月の出回り量は国産品136.2千 (前年比104.4%・前月差▲5.2千	履歴	当年		前年比	当年		前年比	当年		前年比		
1工	_, , , , , , , ,	「b」)、輸入品47.0千b」(同89.8%・同▲6.0千b」)、合計183.2千b。(同100.2%・同▲11.1千b)となり、前月からは国産品・輸入品の	R5年累計		1,683.1	100.4	606.3	563.3	107.6			102.2		
		出回り量が減少した。8月以降、「出回り量は、9月は前年同月をわずかに上回る一方、10月は前年同月をわずかに下回ると予	R6年累計	1,721.2		100.4	619.9	606.3	107.0			102.2		
庫		測する。期末在庫は、9月はやや、10月はかなり大きく、いずれも前年同月を下回ると予測する。なお、過去5カ年の同月平均と	R7年4月	149.3		101.5	51.5	54.1	95.3	200.9	201.8	99.5		
		の比較では、9月はわずかに上回る一方、10月はやや下回る(9月:2.6%増、10月:4.1%減)と予測する。」とされている。	R7年5月	144.3		98.6	47.8	49.3		192.1	195.7	98.2		
			R7年6月	138.9		97.3	50.9	49.3		189.8	190.1	99.9		
<u> </u>	1 今和7年0月動向	(1)令和7年9月の月平均相場は、モモ肉757円/kg(前月差▲21円)・ムネ肉573円/kg(同+5円)正肉合計で1,330円/2kgと前月差	R7年7月	141.4		100.3	53.0	51.3		194.3	190.1	101.1		
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(1) 〒和7年9月の月平均相場は、モモ内757円/kg(前月左▲21円)・44不内575円/kg(同〒5円)正内급前で1,550円/2kgと前月左 ▲16円、前年同月差+335円となった。 ㈱食品産業新聞社発行の畜産日報によると、「国産生鮮物モモはここにきて日経平均で ▲	R7年8月	136.2			47.0		89.8		192.3	101.1		
		750円を割り込んでいる。ただ依然として市中は荷余り感があり、投げ玉もみられる。残暑で量販店の棚替えの時期が後ろ倒しと	八十0万	150.2	150.4	104.4	47.0							
1			相場(月別)	I	モモ肉	1		ムネ肉	Т	ਰ	単位 E肉合計	::円、%		
		ともに先物の入荷量も絞られてくるとみられ、年内は締まった展開が予想される。」と報告されている。	品名 履歴	\1/ F=		<b>公</b> たり.	W.Fr		<b>公</b> 左11.			会た U		
				当年		前年比	当年		前年比			前年比		
相			R5年度平均	700		99.7	384	371		1,084	1,073	101.0		
	0 日法)	(1) 4-立 加州新古細木)ァトフト 6日の4-立仏河は1銀河梨 加州河梨 加州手目に光を見ばるしばってよ マッマ 第二詞曰:	R5年平均	730		110.3	395	348		1,125	1,010	111.4		
柏	2. 見通し	(1)生産・処理動向調査によると、9月の生産状況は入雛羽数・処理羽数・処理重量は前年比増の見込みとなっている。鶏肉相場に	R6年平均	655			369	395		1,024	1,125	91.0		
場		ついては、モモ肉は、量販店が輸入品(ブラジル産・タイ産解凍商品)の販売、国産モモ肉店頭売価改定による販売不振が影響し、前月同様下げ相場となってきている。しかし、気温の下がっている東北方面では、国産モモ肉の販売が上向いてきていると	R7年6月	832		134.4	530	354		1,362	973	140.0		
		の報告もあり、今後の相場動向が気になる。ムネ肉は4月以降、輸入品の国内流通もあるが、依然高止まりが続いている。	R7年7月	803	613		555	355		1,358	968	140.3		
		このような事を踏まえ今後の相場は、モモ肉は10月以降、量販店の売り場変更による鍋需要等考慮し725円、ムネ肉は一部輸入	R7年8月	778			568	359		1,346	972	138.5		
		品に代替えしている加工メーカーもあると聞くが550円前後で推移すると予測する。	R7年9月	757		120.7	573	368		1,330	995	133.7		
			R7年10月	(725)			(550)	379		(1,275)	1,031	123.7		
•	1	I	P7年11日	(745)	600	108.0	(550)	300	1/0.3	(1.90E)]	1 082	110 7		

R7年11月

(745)

690 108.0

(550)

392 140.3 (1,295) 1,082 119.7

※()は見通し